

3次元出来形観測オプション

※ご利用には「TS-FIELD for WIN」本体と「3次元出来形観測オプション」の購入が必要です。

3次元出来形観測オプション

※ご利用には「TS-FIELD for WIN」本体と「3次元出来形観測オプション」の購入が必要です。

「面管理」を目的とした簡易3次元設計データ作成および各種誘導・観測機能が利用可能

国土交通省「i-Construction」では、適用工種・適用範囲の見直しと施工規模に応じた計測方法等の策定が継続的に行われています。「土工編」「舗装工編」等の各編・工種によって一般的に断面管理で用いる単点計測技術を、多点計測技術（面管理の場合）として用いることが可能です。

例①「土工編」の場合 TS(ノンプリズム方式)/TS等光波方式/RTK-GNSS

例②「舗装工編」の場合 TS(ノンプリズム方式)/TS等光波方式

この場合、他の多点計測技術に比べて各計測密度が緩和されていることや、従来の測量機器での対応が可能であり、比較的容易な計測手法と考えられます。

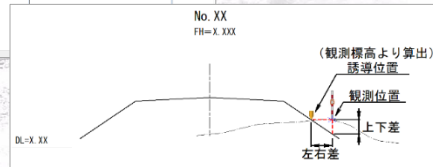
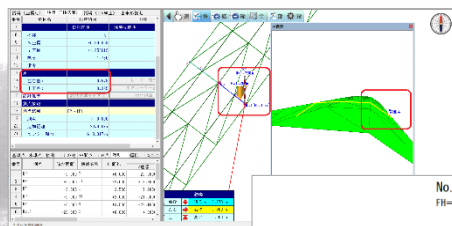
また、丁張が存在しない任意箇所の観測で、施工途中の仕上がり程度の確認を行うことが可能です。

<TIN作成>

- ・簡易的な3次元設計データ(TIN)を作成

<誘導>

- ・横断形状の構成点等を選択し目標の座標点位置へ誘導
- ・TIN法面(掘削/盛土)の任意位置で路線中心線横断方向に近接する法面と計測標高の水平線の交点を自動判定し誘導
- ・3次元設計データの任意のTIN線上を選択し目標位置へ誘導



<出来形観測>

- ・3次元設計データに重ねて表示される出来形評価用グリッドを選択し目標位置へ誘導
- ・計測中の標高較差を誘導情報に表示し標高較差規格値に応じた設定範囲(+0~+20%等)に該当する色別で表示
- ・計測値を保存(座標登録)後は対象グリッドを表示し計測済みまたは未計測の識別が一目瞭然

